

# お花も稲も野菜も

## 雨水で育てる。

現代の日本では、雨水は土に浸透することなく、ほとんどが海へ直接流れていきます。そんな自然の恵みを利用することは、エコロジーの「はじめの1歩」かもしれません。

校庭にはたくさんの木々、花々が植えられています。小さなジョウロで全部の植物に水やりするためには、何度も往復しなければなりませんが、そのこと自体が子どもたちにとっては楽しそうです。



バケツで稲も育てています。もちろんこの稲も雨水で育ちます。



幼稚園の屋外に設置された大きな貯水タンク。ひとつのタンクで2トンの水をためることができます。とても大きいです。



幼稚園の1階、2階のトイレの排水は、すべて雨水活用。小便器は常時、ちょろちょろと水が流れていました。



校庭にはたくさんの木々、花々が植えられています。小さなジョウロで全部の植物に水やりするためには、何度も往復しなければなりませんが、そのこと自体が子どもたちにとっては楽しそうです。

小さなジョウロを手に、校庭に植えられた草木と水タンクの間をなんども往復する子どもたち。はだしになる子、ジョウロをひとりで行くつも運ぼうとする子、草花に話しかける子……みんな大はしゃぎで水と戯れています。

大阪のベイエリア、南港区ポर्टタウンにある住の江幼稚園が、この地域で園をスタートしたのは今から50年以上も昔のこと。歴史ある幼稚園です。

この園では、いまのようなエコロジーがブームになる以前から、子どもたちの成長にふさわしいさまざまなアプローチが試みられてきました。雨水の活用もその活動の一環です。屋外に設置されたタンクは4つ。ひとつのタンクで、2トンの雨水を貯蓄できます。ここにたまった雨水を、花壇の草花やバケツ稲、菜園の水やり、校庭の打ち水、砂場の水遊び、掃除、トイレの小便器用の水として活用しています。

住の江幼稚園の学園長・市田守男さんは、大型貯水タンク導入のいきさつを次のように語ってくれました。「こちらの園では10年以上前から、屋上の配水管をトイレの排水タンクに直結し、雨水やプールの水を有効利用してきたのですが、こうした試みを知った大阪府が、雨水の利用をつうじて地域の環境活動、循環型の

コミュニティづくりを図る『おおさかレインボウぶろじえくと』のモニターとして、小型の貯水タンクを提供してくださいました。タンクに水をためられるようになると、トイレの排水だけでなく、草花の水やりや打ち水などさまざまなことに利用できることがわかってきたんですね。これを活用しない手はないということから、現在のような大型タンクを取り入れることになったわけです」

住の江幼稚園の子どもたちにとって、雨水はごくあたりまえの暮らしの一部として彼らに寄り添っています。しかしあたりまえの風景だからこそ、子どもたちはそこで、自然の営みやしくみ、その大切さを学んでいくのでしょう。水びたしになりながら、喜々として水やりをしている子どもたちの姿が、子どもの樂園、水の樂園そのものを体現していました。



上/取材の日、子どもたちは運動会の練習に一所懸命。広い校庭に元気な声が響き渡っていました。左/水びたしになってもへっちゃら。太陽がすぐに乾かしてくれます。

